



タイ王国 Kingdom of Thailand



たばこ産業の特徴

1. タイ市場は370億本規模。経済危機以降、急激に消費が減少している。
2. 60年以上の歴史を持つタイ専売が製造・流通を独占しているが、1992年の外国製品の輸入許可によりシェアは落ちている(2002年TTMのシェアは)
3. 2002年のTTMのシガレット販売数量は295億本で、10年前に比べて24%減。
4. TTMの主なブランドは"Krong Thip"と"Fallin Rain"の2つである。
5. 市場の96.9%はアメリカンブレンドである。
6. カナダ、ブラジルに次いでグラフィックによる包かへの健康注意表示を導入する世界で三番目の国になった。
2005年からグライク表示が実施される。

[1] 法規制等

警告文：

政府命令の健康警告文リスト10種類から一つを選んで包かの表面・裏面の両方にタイ語で白地に黒書き注意表示をしなければならない。

例：喫煙で死ぬ。喫煙で老化が早まる。喫煙は肺ガンを引き起こす。

喫煙場所：

国内線航空機、バス、タクシー、フェリーは禁煙。

政府所管建物内、民間の職場、教育機関、病院、レストラン、ナイトクラブ、公共の場所、列車内は喫煙規制あり。

広告・促進：

1992年以来、たばこ製品管理法によりテレビ・ラジオなどにより全ての広告は禁止。イベント後援は禁止。ブランド代替広告は禁止。

販売：

自動販売機、未成年への販売、無料サンプリングは禁止。

その他：

消費期限表示が義務付けられている。

タイ国内で販売されるシガレットと葉巻の成分と添加物を報告する義務がある。

製品サンプルは大学医学部とフランスのガン研究国際機関へ送られ分析の上、報告内容が確認される。

成分や添加物に変更になった場合、翌年1月31日までに報告。変更が無い場合でも3年毎に報告せねばならない。

喫煙規制の動向

タイはカナダ、ブラジルに次いで世界で三番目のグラフィックにより包かに健康注意表示をする国になる。

2004年1月19日の新しい喫煙規制法が制定され、タイで販売されるシガレットのパッケージにカラー印刷による例外はなく、輸入シガレットや免税売店のものも適用される。12種類のパターンが用意されている。

実施は12ヶ月の猶予がある。

タイ政府はアラビアの水パイプや特殊ミックたばこの輸入禁止を検討している。

これらの製品は若者のたばこ中毒に関係していると見ている。

ビディヤサラなどのたばこ製品の禁止も考えている。

[2] 税制

物品税	：	小売価格の	75%
輸入関税	：	ASEAN諸国からの製品は 5%	
		その他諸国からの製品は 5% ~ 最高22.5%	
		非ASEAN諸国は	60%
		あるいは(のいずれか高い方)。	80 Local Currency Unite/kg
* ASEAN自由貿易ゾーンで製造されたシガレットは2003年から関税ゼロになる。			
健康促進基金法による課金	：	1.0 LCU/1包か	
輸入葉の関税	：	平均30% (製品小売価格の6%を占める)	

[3] 喫煙者プロフィール

喫煙者は全人口の22.8%に当たる1040万人と推定されている。

タイの喫煙者は価格志向であると言われている。

喫煙者率：成人(11歳以上、2001年)

男性 39.3%

女性 2.2%

合計 20.6%

[4] 市場概況

- 2000年の消費本数は369.6億本。
過去最高であった1996年の497億本から25.6%も減少している。
これは1997年の経済危機と健康志向が原因していると思われる。
- タイは1993年に市場を開放したが、現在でもタイ専売(TTM)がタイ国内でシガレット製造と流通チャンネルを独占的にコントロールしている。
しかしTTMのシェアは過去10年間、減少し続けている。
シガレットの輸入が許可された1991年にはTTMは388.5億本を販売したが、2002年の販売数量は295億本へと24%減少した。
減少の原因は外国製品との競争、増税、不法製品の増加によるものである。
- TTMのシェアは80%、正規外国製品15%、密輸製品は5%と推定されている(2002年)。
PMI、JTI等の製品が急速に市場に浸透している。
- 市場の96.9%はアメリカン・ブレンドである。タイ専売の主なブランドは”Krong Thip”と”Fall in Rain”の2つである。
- タイで一番好まれている外国ブランドはMarlboroで輸入製品のシェアの60%を獲得。
State Express 555とWinstonがこれに続いている。都会で輸入製品を購入できるのは比較的ゆとりのある消費者である。
地方では輸入ブランドの消費は非常に落ちる。
- タイ政府はタイ専売の民営化計画を2002年3月に発表したが、厚生大臣と労働組合の反対に会い証券市場への上場が遅れている。
2004年度に株式の売却が予想されているが、いかなる場合でも売却は全株数の20%を超えないであろうと思われる。

シガレット統計データ (単位 100万本)

	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年
製造数量	36,261	33,915	32,735	30,500	29,500
輸出数量	400	200	596	608	na
輸入数量	2,000	4,000	4,980	4,790	na

詳細データ

	2002年	2001年
TTM製品消費数量(億本)	na	266
バージニア・ブレンド%	na	na
アメリカン・ブレンド%	na	96.9
TTM(タイ専売) %	na	80.9
Philip Morris Int. %	na	16.1
主用ブランド		
Marlboro %	26.5	5.8
Krong Thip %	na	52.3

[5] 製品プロフィール

- タイ専売には24のブランドがあり、これらの平均タール含有量は20mg。
アメリカン・ブレンド製品がポピュラーである。
バージニア・ブレンドも出回っている。
- タイ専売の”Krong Thip”が22パーツ(0.47ドル)。
タイ国内で販売されている外国ブランドは世界的に見ても安く売られておりMarlboroは38パーツ(0.83ドル)である。

TTMの主なブランド・シェア(99年)

Krong Thip(TTM)	60% 以上
Falling Rain(TTM)	10% 以上
Gold City(TTM)	7%

製品小売り価格

国内ブランド	0.90 USドル
外国ブランド	1.30 USドル

[6] 小売り流通(密輸対策)

- タイ専売の製品は免許を受けている284の卸売店と5,000店以上のサブディーラー流通ネットワークの下に20万店を超える小売店がある。
タイ専売はこれらに供給義務を負っている。
他国籍企業はこれらのうち儲かるものだけに販売することが可能。
- 他のアジア諸国と同様に密輸と偽造が問題。船上で偽造する例もある。
タイ専売は”Krong Thip 90”と”Falling Rain”の両ブランドに物品税証票を貼り、偽造製品区別対策をしている。
偽造製品は年間30億本と推定されており、中でもKrong Thipの偽造が多い。

[7] 企業概要

タイたばこ専売(TTM) :

1939年に設立。タイ国内でたばこ製造・流通を独占的に支配している。

TTMは最も利益が出ている国営企業の一つであり、年間約300億本を売り、2003年の利益は49億バーツ。

1992年の市場開放により、シェアは97%(1993年)から2002年には80%に落ちている。

主力工場はバンコック周辺にある3工場。3工場のうち1ヶ所はフィルタ無しを含む中低価格製品を製造。

他2工場は中高級品を製造。主に1000～2500回転の巻上機が使用されているが、最近数カ所の工場に1万回転の機械が導入されている。

TTMのシガレット製造数量は1996年にピークに達した(471.3億本)。

タイが経済危機に陥った1997年以降、TTMのシガレット製造数量は1997年の471.3億本から2001年には295.3億本に減り、年平均の減少率は7～8%に達している。

現在、フィルタ・シガレットの製造数量割合は99%である。残りはノンフィルタ製品である。

外国製品と密輸製品のからの強い競争圧力により、TTMは組織内でコスト削減キャンペーンを始め、新ブランド・シガレットを発売し、組織の民営化を始めた。

TTMの課題は外国の競争相手との競争力を向上するために、バンコックの工場をチェンマイに移転して新工場を建設することである。

新工場の製造数量は400億本、投資額は160億バーツを予定している。

このプロジェクトに対して、中国雲南省のたばこ製造センターである国営企業が投資に強い関心を示している。

イタリア、ドイツ、イギリスの企業もこのプロジェクトに熱心である。

タイの首相はTTMが戦略的パートナーを持つことに反対している。

首相はTTMが国際企業と戦略的協定を結んだり、契約製造を行うことには賛成であるが、株を外国企業に売る必要はないと言っている。

TTMの民営化は政府にとって微妙な問題であり、外国企業への株の売却は国内葉たばこ農家のサポーターとしてのTTMの立場を複雑にする。

TTMのその他の問題として、5工場を2工場にするリストラ、20を超えるブランド・ポートフォリオの整理、中・低ターゲットセグメントにおける意味あるブランド配置の開発、TTMが供給義務を負っている流通網と小売り20万店の見直しがある。

[8] 葉たばこ概況

黄色種が主力であり、その他に少量のダークエアキュアード葉とサンキュアード葉を生産している。

耕作者はタイ専売から生産量の割当てを受けて、政府指定価格でタイ専売へ売り渡す。

生産割当量以外の葉たばこは独立の再乾燥業者に売り渡され、更に葉たばこ会社を通じて輸出されている。

2002年のタイの全葉たばこ生産量は53,780トン(パーレー葉は3万トン)。

パーレー葉のほとんど全てがタイ北部南のPhetchabunとSukhothai省で栽培されている。

黄色種生産は北部北で栽培されており、収穫時期は3期に分けられている。

丘や傾斜地で栽培されている早期収穫葉はボディーが薄く、アロマが高いためにTTMや輸出業者に好まれている。

葉たばこ統計データ(単位 トン)

	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年
生産数量	59,428	53,610	46,300	53,100	53,780
輸出数量	28,516	21,559	25,833	25,954	na
輸入数量	8,661	3,442	6,515	5,601	na